

4 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの多様な進路を見据えた教育課程の検証と必要な改善を図る。 ②生涯にわたり自ら学ぶ力を育み、社会に貢献し次世代を創る資質と能力を育成するための授業研究を進める。 ③主体性をもって考え、課題に向き合い、解決する意欲と能力を育む総合的な探究の時間の充実を図る。	②研究テーマを設定し、実現に向けた授業実践、研究活動を行う。 ③総合的な探究の時間における個人探究を中心に、重層的なPDCAサイクルを意識した指導計画の策定および指導改善を図る。	②各教科での検討、授業実践、公開研究授業を行う。 ③計画案をもとにした各学年の取組を共有し、指導計画作成に取り組む。また総合的な探究の時間の研修会を実施する。	②研究テーマに沿った授業研究を進め、公開研究授業の円滑な運営ができたか。 ③各学年の取組を共有し、指導計画を作成できたか。
2	生徒指導 ・支援	①生徒が「自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送るため生徒心得の検証と見直しを図る。 ②他者と協働する力を育成するため、部活動を活性化させる。 ③生徒自ら学校行事等を企画し、立案し運営していく力を育むため、特別活動の充実を図る。 ④生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るため、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制を構築し実践する。	①生徒が「自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送るため、生徒指導における指針を定め、それに則った生徒心得の検証と見直しを図る。 ③生徒が学校行事を運営する力を育むとともに、行事の内容を検証し改善する。	①職員あるいは生徒の意見を集約して生徒指導における指針を定め、それに基づいて生徒心得を検証し、必要であれば見直す。 ③皁月祭について、行事を運営する生徒と教員で話し合う機会を増やし、よりよい内容を検討する。	① 生徒心得が生徒指導における指針に則ったものか。生徒および職員の共通理解はとれているか。 ③皁月祭終了後に、行事を運営する生徒に対してアンケートを実施し、教員との話し合いが十分できたと回答する生徒が75%以上になったか。
3	進路指導 ・支援	①入学直後から積極的に自らの将来を考え、社会人として活躍できる人材となる目標をもたせられるように、多岐にわたり情報を提供していける支援体制を整える。 ②高校卒業後の進路を深く意識する機会をつくり、希望の進路実現に向けて、自ら意欲的に学習に取り組み、他者とも積極的に関係を築いていける生活環境を整える。	②各学年において進路実現に必要なとされる準備段階をたどらせることにより、高校卒業後の進路を深く意識しながら学校生活を送ることができる環境を整える。	②進路指導の際に利用する『進路のしおり』を全面改定することで、各学年の段階において自身の進路をより強く意識させられるよう、その活用を推進する。また、キャリアカウンセリングを通じて作成されるキャリアパスポートの活用推進も同時に図る。	②『進路のしおり』の利用率およびキャリアパスポートの活用率80%以上を達成することができたか。
4	地域等との 協働	①他者と協働し社会に貢献する力を育成するため、地域の幅広い年齢層の方々と交流する機会を提供する。 ②生徒が自ら地域に根差した活動ができるよう連携を深め、開かれた学校づくりに取り組む。	①②地域の様々な機関との交流を行いながら地域社会へ貢献できる活動に取り組む。	①②地域貢献活動等の機会をとらえて、地域の方々と交流し、協働して社会に貢献する力を育成する。	①②地域の方々から率先して交流し、協働して活動することができたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒が主体的に実践する校内設備の維持・改善及び校内美化の推進に取り組む。 ②生徒の防災意識の向上及び防災について地域との連携のあり方を検討し実践する。 ③業務のデジタル化に取り組む。 ④引き続き、職員の働き方改革と不祥事防止に取り組む。	②生徒の防災意識をより高めるような、避難訓練・帰着地訓練、及びDIGを実施する。 ④職員の時間外在校等時間の縮減と不祥事ゼロを目指す。	②生徒に迅速な避難行動を促すような、緻密な訓練計画を立案する。 ④職務の精選や効率化を推進する。また、校内研修等を通して不祥事を防止する。	②生徒の防災意識を高めることができたか。 ④職員の時間外在校等時間が縮減したか。また、職員の不祥事ゼロが達成できたか。